

通釋

十一

出て和光同塵の序かたちも

つても佛法流布の國たるべし

やな有難や 南無や歸命頂礼

大日如来 昔伊弉諾伊弉

冊の尊この序をたづねて

天の原はしとらみわたり

則序ほとせとらし

系とせとらし

をかき分けかき分け

へば芽のたたりかた

て國となり 先淡路

のくに伊勢トま 筑紫四國

おとて八つのくにとなりて

ハ洲の國と名づけ 天地人の三

となる事も 矛の徳なり

有難や 舞 舞 舞

通釋

十一

出て和光同塵の序かたちも

つても佛法流布の國たるべし

やな有難や 南無や歸命頂礼

大日如来 昔伊弉諾伊弉

冊の尊この序をたづねて

天の原はしとらみわたり

則序ほとせとらし

系とせとらし

をかき分けかき分け

へば芽のたたりかた

て國となり 先淡路

のくに伊勢トま 筑紫四國

おとて八つのくにとなりて

ハ洲の國と名づけ 天地人の三

となる事も 矛の徳なり

有難や 舞 舞 舞

↑↑長地
寝なれば。地^地おんたぐには。地^地又キ地^{又キ地}荒涼^{荒涼}

なれば。さながら。地^地険しき。地^地又キ地^{又キ地}荒涼^{荒涼}

なりしを。地^地茅の。地^地平。地^地は。地^地や。地^地と。地^地な

つて。地^地芦は。地^地ら。地^地と。地^地な。地^地ぎ。地^地拂。地^地ひ。地^地引。地^地捨。地^地杖

けば。地^地山。地^地と。地^地なり。地^地ぬ。地^地是。地^地東。地^地の。地^地山。地^地と。地^地い

ひ。地^地土。地^地は。地^地さ。地^地な。地^地が。地^地ら。地^地石。地^地か。地^地ね。地^地なり。地^地と

の。地^地は。地^地さ。地^地ま。地^地に。地^地あ。地^地た。地^地り。地^地く。地^地だ。地^地け。地^地ば

ひ。地^地其。地^地作。地^地東。地^地西。地^地南。地^地北。地^地十。地^地方。地^地を。地^地納。地^地め

悪魔を。地^地り。地^地ぞ。地^地け。地^地豊。地^地あ。地^地し。地^地涼。地^地の。地^地園

海。地^地り。地^地て。地^地茅。地^地と。地^地ま。地^地り。地^地の。地^地く。地^地り。地^地か。地^地屋

何。地^地王。地^地の。地^地の。地^地寶。地^地お。地^地に。地^地納。地^地め。地^地を。地^地り。地^地毎。地^地日

め。地^地ぐる。地^地や。地^地日。地^地の。地^地本。地^地の。地^地寶。地^地の。地^地お。地^地に。地^地龍

田。地^地の。地^地神。地^地は。地^地た。地^地か。地^地ら。地^地の。地^地や。地^地ま。地^地に。地^地た。地^地つ。地^地た

の。地^地神。地^地は。地^地茅。地^地を。地^地守。地^地り。地^地の。地^地神。地^地神。地^地な

り。地^地合。地^地合。地^地正。地^地ア。地^地リ

西五母

西三十一

十四

おげ (三) ちるまを (三) へは (三) げん (三)

いの冠を著 (イロエテ) まよ (ツケ) くに (ツケ) 感れ

る (手切) 柗を (手切) 侍女が (手切) 手より (手切) ちり (手切) が

は (手切) 一 (手切) 甲 (手切) 君に (手切) おま (手切) ぐる (手切) 柗 (手切) 寶 (手切) の (手切)

花の (半判) さ (手切) かつ (高判) き (手切) ちり (手切) あ (手切) へ (手切) ず (手切)

●仕舞 太鼓中ノ舞止 (初段) 花も (初段) 忍 (初段) へ (初段) る (初段) や (初段) ま (初段) が (初段)

づ (手切) き (手切) の (手切) 花 (手切) も (手切) 忍 (手切) へ (手切) る (手切) や (手切) ま (手切) が (手切) つ (手切)

き (手切) の (手切) 手 (手切) ま (手切) り (手切) ち (手切) る (手切) 曲 (手切) 水 (手切) の (手切) え (手切) ん (手切)

か (手切) や (手切) み (手切) か (手切) わ (手切) の (手切) 水 (手切) は (手切) た (手切) わ (手切) ら (手切) れ (手切) た (手切) わ (手切) ら (手切) び (手切)

ひ (手切) る (手切) だ (手切) を (手切) や (手切) め (手切) の (手切) 袖 (手切) も (手切) も (手切) す (手切) そ (手切) も (手切) た (手切)

な (手切) び (手切) き (手切) た (手切) な (手切) び (手切) く (手切) 雲 (手切) の (手切) 花 (手切) 鳥 (手切) の (手切) 姿 (手切) 隠 (手切)

に (手切) 糸 (手切) し (手切) つ (手切) つ (手切) 雲 (手切) 路 (手切) に (手切) う (手切) つ (手切) れ (手切) ば (手切) 玉 (手切) 母 (手切)

も (手切) 伴 (手切) ひ (手切) 禁 (手切) ぢ (手切) の (手切) ほ (手切) る (手切) 玉 (手切) 母 (手切) も (手切) 伴 (手切) ひ (手切)

よ (手切) ち (手切) り (手切) や (手切) 天 (手切) 路 (手切) の (手切) 行 (手切) ち (手切) も (手切) ち (手切) ら (手切) ず (手切) ぢ (手切)

な (手切) り (手切) に (手切) け (手切) る (手切) 合 (手切) 込 (手切) 止 (手切) ヲ (手切) ア (手切) リ (手切)

道明寺 (外二)

道月軒

道明寺

一五

あ(地)の(手)梅(手)の本(手)の(手)寶(手)ころ(手)この(手)

珠(手)敷(手)の(手)清(手)法(手)な(手)れ(手)必(手)ず(手)授(手)け(手)

申(手)さ(手)ん(手)ま(手)て(手)婦(手)ら(手)と(手)見(手)れ(手)ば(手)立(手)

ち(手)止(手)り(手)て(手)わ(手)れ(手)は(手)天(手)神(手)の(手)侍(手)使(手)

名(手)を(手)は(手)誰(手)と(手)か(手)白(手)大(手)夫(手)の(手)神(手)と(手)申(手)

す(手)翁(手)草(手)の(手)霧(手)曇(手)り(手)と(手)せ(手)げ(手)り(手)わ(手)

霜(手)曇(手)り(手)に(手)失(手)せ(手)い(手)け(手)り(手)

の(手)神(手)遊(手)び(手)今(手)思(手)ひ(手)が(手)も(手)う(手)お(手)も(手)う(手)ら(手)

ど(手)り(手)に(手)舞(手)の(手)役(手)ど(手)り(手)ど(手)り(手)に(手)

舞(手)臺(手)琴(手)和(手)琴(手)笛(手)竹(手)の(手)夜(手)は(手)更(手)け(手)

行(手)け(手)ど(手)も(手)岳(手)の(手)役(手)者(手)な(手)ど(手)や(手)遅(手)き(手)

ぞ(手)白(手)大(手)夫(手)急(手)い(手)で(手)出(手)で(手)よ(手)と(手)侍(手)ち(手)

た(手)ま(手)い(手)出(手)端(手)一(手)段(手)歩(手)コ(手)イ(手)合(手)月(手)も(手)か(手)か(手)や(手)く(手)

宮(手)寺(手)の(手)常(手)の(手)燈(手)火(手)明(手)月(手)た(手)り(手)

道明寺

道明寺

一五

嵐山

(外三)

月日も三吉聖のお櫓立ちあがる雲

はらりて夕陽残る西よ南

の方に行きまはけり南の方に行

まはけり下り端歩き三吉野の三吉

野の千本の花の種扱えて

嵐山あらたなる神遊びぞめで

たまらぬの神遊びぞめでたま

雪の木守膝手の恵なれや松

の色青根が峯ここは青根が

峯ここは小倉おも見くたり向

ひはる磯の原。下は堰川の

岩根に波かかるともいへた

り。萬代と。萬代と。雑せ雑せ

遊び。千早ぶる。天女舞止りて

神樂

嵐山

大

の鼓聲澄みて。神樂の鼓聲

澄みて。塵埃の粒をひらるがへ

翻す音の秘曲も度重なり

て。感應に銘ずるよりから

不思議や南の方より吹きくる

風の異香薫じて瑞雲たなび

き。金色の光輝きわたるは蔵

玉権現の來現かや早苗止む

われ本意の都をいでて分岐同居

の塵に交わり。金胎兩部の足

を助け。空に清手をあげ

をひらき。悪業の象生の苦患

て。忽ち苦海の煩惱を拂ひ

悪魔降伏の青蓮のまなじりに

光明を放りて。國土を照し。衆

光

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

(半)ムスビキ

生を守る。誓を願ふ。本守勝手

藏王権現同體異名の姿を見

せて。おのおの嵐のふに攀ちの

ぼり。花に戯れ指にかけつて。さ

ながら。ここのも。金の峯の。光も輝

く。千本の。梅。光も輝く。千本の。梅

の。栄ゆく。まこそ。久しけれ

巻絹

伽毘羅衛に契りし事のかひあ

り。て。交珠の。赤頼を。拜むなりそ

互に。佛佛を。願すも。和歌の。徳

に。あらずや。し。又。神は。出雲。八重垣

片そぎの。寒き。世の。ため。い。は

ず。とも。傳へ。聞き。つべし。神の。

め。ゆ。よ。系。梅。の。風。の。解。け。そ。ぞ。思

は。る。る。あ。ら。ば。祝。詞。を。よ。ら

嵐山

一六

く。女知らずや我が心國を

守る。誓あり。寶劍光すさ

まじく。日月影おろそかに松嵐

楳を拂ふが如く。悪鬼の影れ

恐れ去つて。げほ鐘の精霊

たり。議及寺切。議及寺切。議及寺切。

項羽

待望 楓林に。予み法の聲立てて。吊

み法の聲立てて。彼にうまねの

夜となく。晝もわかぬ吊ひの。

般若の船のあづからその

とく法の心を。静め聲を

げ。一切有情。殺害云。界不墜惡

趣。出端一段。止ノイ合。昔は。然。郷。雲。客

う。ちかてみ。今は。樵歌。野田の

月。烟。體。霧。深。古。松。下。の。影

録

三三

三十一

三十四

捨てて身(ウケ)をたくばかり(三段ノル地)に口惜(ウケ)

かりし。夢物(ウケ)譚(ウケ)ぞ。哀(ウケ)なる(ウケ)

あはれ(ウケ)若(ウケ)き(ウケ)瞋(ウケ)意(ウケ)の(ウケ)燿(ウケ)の(ウケ)互(ウケ)ち(ウケ)あ(ウケ)が(ウケ)

れ(ウケ)怒(ウケ)し(ウケ)き(ウケ)瞋(ウケ)意(ウケ)の(ウケ)燿(ウケ)の(ウケ)互(ウケ)ち(ウケ)あ(ウケ)が(ウケ)

り(ウケ)つ(ウケ)つ(ウケ)味(ウケ)方(ウケ)と見(ウケ)れば(ウケ)高(ウケ)祖(ウケ)に(ウケ)

属(ウケ)して(ウケ)寄(ウケ)せ(ウケ)る(ウケ)彼(ウケ)の(ウケ)荒(ウケ)き(ウケ)聲(ウケ)

聲(ウケ)聞(ウケ)けば(ウケ)腹(ウケ)立(ウケ)ち(ウケ)り(ウケ)ぞ(ウケ)物(ウケ)見(ウケ)せん(ウケ)

とみ(ウケ)づ(ウケ)か(ウケ)ら(ウケ)か(ウケ)け(ウケ)出(ウケ)で(ウケ)敵(ウケ)と(ウケ)近(ウケ)づ(ウケ)け(ウケ)

せ(ウケ)捨(ウケ)ぢ(ウケ)首(ウケ)り(ウケ)り(ウケ)ぞ(ウケ)り(ウケ)に(ウケ)恐(ウケ)ろ(ウケ)か(ウケ)

り(ウケ)け(ウケ)る(ウケ)執(ウケ)か(ウケ)な(ウケ)れ(ウケ)ど(ウケ)も(ウケ)運(ウケ)盡(ウケ)ま(ウケ)ぬ(ウケ)

れば(ウケ)鳥(ウケ)の(ウケ)野(ウケ)邊(ウケ)の(ウケ)中(ウケ)の(ウケ)塵(ウケ)と(ウケ)

ぞ(ウケ)な(ウケ)り(ウケ)に(ウケ)け(ウケ)る(ウケ)

熊坂

(外四)

そのま(ウケ)ま(ウケ)見(ウケ)え(ウケ)ず(ウケ)形(ウケ)も(ウケ)失(ウケ)せ(ウケ)

て。此(ウケ)處(ウケ)や(ウケ)彼(ウケ)處(ウケ)と(ウケ)尋(ウケ)ぬ(ウケ)る(ウケ)所(ウケ)

熊坂

三十五

に思ひもよらぬ後より。具足（カケテ）の

すきまをちやうと斬れば（カケテ）こ

はいかにあの冠者（カケテ）に斬らる（カケテ）

事の腹あらさまと云へども天（カケテ）

命の運の極そ念なる（カケテ）

打おわびにて適みまじ。打おわ（カケテ）

びにて適みまじ。手取りにせ（カケテ）

んもて薙刀投げ捨て大手をひ（カケテ）

るげてこの面廊からこのつま（カケテ）

りに。追かけ追つめ取らん（カケテ）

とすれども陽炎稲妻。水の月（カケテ）

かわ姿はるれども手に取られ（カケテ）

ず。次次手に重手は負ひぬ（カケテ）

次次手に重手は負ひぬ。猛（カケテ）

き心。かも弱り。弱り行きて（カケテ）

野守 (外四)

野守

二六

是すれ 國を治め 民をあはれ

志 天道に通じて 忽ち 備

佛も 感應す あたり 大事

を 併て 高祖につか 敵を平ら

げ 味をいそめ 天下を治めん

ばかりこそ 女に傳へんと 弱を

はやめて 来り 給ふと 張良 遠に

見れば ありしに 変れる 砒公

の 楯の 眼の 光も あたりを 拂ひ

安も かがやく 威勢に 恐れ 樹

も ながさ あり 侍ら たり

いたる 昔を 馬上より 履

作に 義し 給くば 張良 づい

て 飛んで 降り 流る 昔を

取らん 子れども 所は 下郎の

張良

張良

張良

張良

巖石いはほに足もたまらず早

き頼の矢を射る如く落ちる

水にほきぬ沈みぬ流るる雷を

あふまきやうこそなかりけり

不思議や川浪立ち席り

不思議や川浪立ち席

俄に川霧たち暗がて浪

間に出づ。蛇體の蛇か。くれなゐの

目かけてかかりけるが。流るる雷

と。おひ取り上げて。面もふらず

かかりけり。龍神舞働。歩達步達。張良駭が

ず釘を抜きもち。張良駭がず

針を抜きもち。蛇體にかかれは

大蛇は釘の光に恐れ。持ちた

る雷を。さし出せば。雷をおひ取

巖石

足も

早

き頼

落ちる

水に

雷を

あふ

けり

不思議

席り

不思議

席

俄に

浪

間に出

の

目かけ

雷

と。おひ

ず

かかり

駭が

ず釘を

駭が

針を

は

大蛇は

持

る雷を

取

張良

三

一、^(地ノル地) 鏝を^(シカケムスビアシライ) 納め。又^(手切) 作岸に^(シカケムスビ段又) へえい^(手切) わ。

と^(ウケ) どり。さ^(ウケ) て^(ウケ) 彼の^(ウケ) 音^(ウケ) を^(ウケ) 取^(ウケ) り^(ウケ) 出^(ウケ) す。

一、^(カケ) 石公^(カケ) に^(カケ) 復^(カケ) かせ^(カケ) 奉^(カケ) れば^(カケ) 静^(カケ) 石公^(カケ) 。

馬^(ヨイ合) より^(ヨイ合) 静^(ヨイ合) かに^(ヨイ合) あり^(ヨイ合) 立ち^(ヨイ合) 。

より^(地ノル地) 静^(地ノル地) かに^(地ノル地) あり^(地ノル地) 立ち^(地ノル地) 。

も^(地ノル地) 母^(地ノル地) の^(地ノル地) 善^(地ノル地) き^(地ノル地) かな^(地ノル地) 善^(地ノル地) き^(地ノル地) かな^(地ノル地) と^(地ノル地) 彼の^(地ノル地) 。

一、^(ウケ) 巻^(ウケ) を^(ウケ) 取^(ウケ) り^(ウケ) 出^(ウケ) し^(ウケ) 。

ひ^(ウケ) じ^(ウケ) にか^(ウケ) ば^(ウケ) 別^(ウケ) ち^(ウケ) 披^(ウケ) き^(ウケ) 。

一、^(ウケ) 秘^(ウケ) 曲^(ウケ) 口^(ウケ) 傳^(ウケ) を^(ウケ) 孫^(ウケ) ず^(ウケ) 傳^(ウケ) へ^(ウケ) 。

彼の^(ウケ) 犬^(ウケ) 蛇^(ウケ) は^(ウケ) 觀^(ウケ) 音^(ウケ) の^(ウケ) 再^(ウケ) 延^(ウケ) 母^(ウケ) が^(ウケ) 心^(ウケ) 。

と^(ウケ) 心^(ウケ) た^(ウケ) め^(ウケ) な^(ウケ) れ^(ウケ) ば^(ウケ) 今^(ウケ) より^(ウケ) 後^(ウケ) は^(ウケ) 。

守^(ウケ) 護^(ウケ) 神^(ウケ) と^(ウケ) なる^(ウケ) べ^(ウケ) し^(ウケ) と^(ウケ) 犬^(ウケ) 蛇^(ウケ) は^(ウケ) 。

雲^(ウケ) 岳^(ウケ) に^(ウケ) 攀^(ウケ) ち^(ウケ) 上^(ウケ) れ^(ウケ) ば^(ウケ) 石^(ウケ) 公^(ウケ) 遍^(ウケ) の^(ウケ) 。

高^(ウケ) 山^(ウケ) に^(ウケ) あ^(ウケ) が^(ウケ) り^(ウケ) 。

空^(ウケ) に^(ウケ) は^(ウケ) な^(ウケ) し^(ウケ) 。

あ^(ウケ) ら^(ウケ) は^(ウケ) じ^(ウケ) 孫^(ウケ) ず^(ウケ) 終^(ウケ) み^(ウケ) ぞ^(ウケ) 。

有^(ウケ) 難^(ウケ) き^(ウケ) 。

羅生門

(外五)

地(下リ)の音も一きりにみくる夜

音も一きりにみくる夜の

鐘も圓ゆる曉に東寺の前を

うち過ぎる。九條おもてはうら

て出で。羅生門をえ渡せば物凄

しく雨落ちて。俄かに吹きくる

風の音は。駒も進まず。高いな

なまきり。身ぶらひりてこそを

つたりけれん。其の時馬を。乗り

はなし。その時馬を。乗りは

なし。羅生門の石段はあがり

に。のれを。取り出だ。段

どにきておき。席を。とす。に

後より。壘の。鏝を。搦んで。引

留めければ。すは。や。鬼。祓。と。太

刀拔き持て斬らんとするに
(ウケ) ハラロシツノ
(ウケ) ハラロシ
(二段)

取りたる鬼の緒を引ちぎりて
(地ノル地)
キザミ

おぼすず段より飛びおりた
(ウケ) ムスビキダ
(ウケ) カ
浮拍合

かぐて鬼神は怒をなして
(初段) ウケ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビキダ
(ウケ) カ
浮拍合

かぐて鬼神は怒をなして持
(初段) ウケ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

ちたる鬼をかつばと投げ捨て
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

そのたけ鼻の軒にひとく
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

眼目のめぐりにて網を瞬んで
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

立刃たりけり舞鶴止寺迄
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

ずたカネーかざー網は駱がず
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

たカさーかざー女知らずや
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

地を掘す其天野は遁るまじと
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

てかりければ鉄杖を振りあげ
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

えいやとあつと飛びちがひち
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

と斬る斬られて細みつくを
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

拂み鉢に腕ち落されひらむ
(ウケ) カ
(ウケ) カ
地上ニ
(ウケ) ムスビ
(ウケ) カ
浮拍合

羅生門

三十三

と見えし(手切)がわきつら(手切)にのぼり

虚空をふりて(初段)あがりけふ(初段)を(シカケ)集(ムスビ)

ひゆけども(手切)黒雲おほひ(手切)時節(ウツ)を待(ウツ)

ちて(三段)又(二)あふべ(三)と(シカケ)呼(ムスビ)はる(ムスビ)聲(ムスビ)

も(手切)かすか(手切)に(手切)円(手切)ゆる(三)鬼神(三)より(三)も(三)

恐ろ(手切)かりし(手切)網(手切)は名(手切)を(手切)こそ(手切)

あげ(合)に(合)けれ(合)

鉄輪

(外五)

伊弉諾伊弉册(イサノイサヒ)の(ノ)き(キ)天(アマ)の(ノ)怒(イカリ)座(イ)

に(ニ)て(テ)み(ミ)と(ト)の(ノ)ま(マ)く(ク)ば(バ)ひ(ヒ)あり

より(ヨリ)男(オトコ)女(メ)夫(ウツ)婦(メ)の(ノ)か(カ)た(タ)ら(ラ)ひ

を(ヲ)な(ナ)し(シ)陰(カゲ)陽(ヨウ)の(ノ)道(ミチ)永(トヨク)く(ク)傳(ツタ)は(ハ)る(ル)

それ(ソレ)に(ニ)な(ナ)ん(ン)ぞ(ゾ)魍(ワウ)魎(リョウ)鬼(キ)神(カミ)妨(サマシ)を(ヲ)

なし(ナシ)非(ヒ)業(ギヤク)の(ノ)命(イノチ)を(ヲ)取(トル)らん(ラン)と(ト)わ

大小(ダイコウ)の(ノ)神(カミ)祇(ギ)諸(シヨ)佛(ブツ)菩(ボツ)薩(サツ)明(メイ)王(オウ)部(ブ)

天(テン)童(ドウ)部(ブ)九(ク)曜(ヨウ)七(シチ)星(セイ)二十(ニジュウ)八(ハチ)宿(シュク)を(ヲ)

鉄輪

(外五)

鐘
車

驚（手切）し（ウケウケ）離（上ス）り（ウケ）祈（ウケ）れば（ウケ）不思議（ウケ）や（ウケ）

雨（初段）降り（ウケ）風（ウケ）落（ウケ）ち（ウケ）神（ウケ）鳴（ウケ）り（ウケ）宿（ウケ）妻（ウケ）真（ウケ）

り（ウケ）に（ウケ）み（ウケ）ち（ウケ）み（ウケ）ち（ウケ）津（ウケ）幣（ウケ）も（ウケ）ぎ（ウケ）ざ（ウケ）め（ウケ）

き（二段）浮（ノル地）動（ウケ）して（ウケ）身（ウケ）の（ウケ）毛（ウケ）よ（ウケ）だ（ウケ）ち（ウケ）

て（ウケ）お（ウケ）そ（ウケ）ろ（ウケ）り（ウケ）や（ウケ）
出端一段止ソコイ合
（出端及三不越二段）

花（ウケ）は（ウケ）斜（ウケ）脚（ウケ）の（ウケ）暖（ウケ）風（ウケ）に（ウケ）用（ウケ）け（ウケ）

て（ウケ）因（ウケ）じ（ウケ）く（ウケ）暮（ウケ）春（ウケ）の（ウケ）風（ウケ）に（ウケ）教（ウケ）り（ウケ）

月（ウケ）は（ウケ）東（ウケ）ぶ（ウケ）より（ウケ）出（ウケ）で（ウケ）て（ウケ）早（ウケ）く（ウケ）西（ウケ）嶺（ウケ）

に（ウケ）隠（ウケ）れ（ウケ）ぬ（ウケ）世（ウケ）上（ウケ）の（ウケ）無（ウケ）常（ウケ）か（ウケ）く（ウケ）の（ウケ）如（ウケ）

一（ウケ）。因（ウケ）果（ウケ）は（ウケ）車（ウケ）輪（ウケ）の（ウケ）廻（ウケ）る（ウケ）が（ウケ）如（ウケ）く（ウケ）

わ（ウケ）れ（ウケ）に（ウケ）憂（ウケ）か（ウケ）り（ウケ）し（ウケ）人（ウケ）々（ウケ）に（ウケ）忽（ウケ）ち（ウケ）

報（ウケ）を（ウケ）見（ウケ）す（ウケ）ま（ウケ）き（ウケ）な（ウケ）り（ウケ）意（ウケ）の（ウケ）身（ウケ）の（ウケ）

浮（ウケ）む（ウケ）事（ウケ）な（ウケ）ま（ウケ）き（ウケ）賀（ウケ）茂（ウケ）川（ウケ）に（ウケ）沈（ウケ）み（ウケ）

川（ウケ）は（ウケ）水（ウケ）の（ウケ）青（ウケ）き（ウケ）鬼（ウケ）わ（ウケ）れ（ウケ）は（ウケ）貴（ウケ）

船（ウケ）の（ウケ）川（ウケ）の（ウケ）螢（ウケ）火（ウケ）頭（ウケ）に（ウケ）戴（ウケ）く（ウケ）

鉄（ウケ）輪（ウケ）の（ウケ）足（ウケ）の（ウケ）火（ウケ）の（ウケ）春（ウケ）き（ウケ）鬼（ウケ）と（ウケ）

鉄
輪

鐘車

なみで (ナセ) 地 (ナセ) へ (ナセ) たり (ナセ) たる (ナセ) 男 (ナセ) の (ナセ) 枕 (ナセ) に (ナセ) 寄り (ナセ)

そ (ナセ) ひ (ナセ) いか (ナセ) に (ナセ) 殿 (ナセ) 御 (ナセ) よ (ナセ) 終 (ナセ) ら (ナセ) じ (ナセ) け (ナセ) ね (ナセ) ば (ナセ)

眼 (ナセ) め (ナセ) じ (ナセ) や (ナセ) 御 (ナセ) 身 (ナセ) と (ナセ) 契 (ナセ) り (ナセ) し (ナセ) 其 (ナセ) の (ナセ) 味 (ナセ)

は (ナセ) 玉 (ナセ) 椿 (ナセ) の (ナセ) 八 (ナセ) 千 (ナセ) 代 (ナセ) 二 (ナセ) 葉 (ナセ) の (ナセ) 松 (ナセ) の (ナセ) 末 (ナセ)

か (ナセ) け (ナセ) て (ナセ) 妻 (ナセ) ら (ナセ) じ (ナセ) と (ナセ) そ (ナセ) 思 (ナセ) ひ (ナセ) け (ナセ) に (ナセ)

な (ナセ) ど (ナセ) も (ナセ) 捨 (ナセ) て (ナセ) は (ナセ) 果 (ナセ) て (ナセ) 終 (ナセ) む (ナセ) ら (ナセ) へ (ナセ) あ (ナセ)

ら (ナセ) 恨 (ナセ) め (ナセ) じ (ナセ) や (ナセ) 捨 (ナセ) て (ナセ) ら (ナセ) れ (ナセ) て (ナセ) 捨 (ナセ) て (ナセ) ら (ナセ)

れ (ナセ) て (ナセ) 思 (ナセ) ひ (ナセ) 思 (ナセ) ひ (ナセ) の (ナセ) 涙 (ナセ) に (ナセ) 沈 (ナセ) む (ナセ) ら (ナセ) せ (ナセ)

眼 (ナセ) め (ナセ) じ (ナセ) を (ナセ) か (ナセ) こ (ナセ) ち (ナセ) 或 (ナセ) 味 (ナセ) は (ナセ) 終 (ナセ) じ (ナセ)

く (ナセ) 又 (ナセ) は (ナセ) 恨 (ナセ) め (ナセ) じ (ナセ) 起 (ナセ) ま (ナセ) け (ナセ) て (ナセ) も (ナセ) 寝 (ナセ)

て (ナセ) も (ナセ) 忘 (ナセ) れ (ナセ) ぬ (ナセ) 野 (ナセ) 心 (ナセ) の (ナセ) 因 (ナセ) 果 (ナセ) は (ナセ) 今 (ナセ)

ぞ (ナセ) と (ナセ) 白 (ナセ) 雪 (ナセ) の (ナセ) 消 (ナセ) え (ナセ) な (ナセ) ん (ナセ) 命 (ナセ) は (ナセ) 今 (ナセ)

窟 (ナセ) ぞ (ナセ) いた (ナセ) は (ナセ) じ (ナセ) け (ナセ) ね (ナセ) ば (ナセ)

益津川

廣 (ナセ) く (ナセ) 舊 (ナセ) 里 (ナセ) を (ナセ) 去 (ナセ) り (ナセ) て (ナセ) 遍 (ナセ) く (ナセ) 幕 (ナセ)

下 (ナセ) を (ナセ) 舐 (ナセ) め (ナセ) たり (ナセ) 明 (ナセ) 亦 (ナセ) 衆 (ナセ) に (ナセ) 越 (ナセ)

(外五)

え。明智世に勝れ。西海の西都

に安樂寺の地を點じて。暮秋を

振く。本地覺王如來。寂怒の

と出でて。のち宰府に任みたま

ふ。出端一段歩謡カケ。後シテ。上。ただ頼め。標茅か

原のさうも。ま。われ。世の中。に。あ

らん。限りは。し。ん。きり。に。修。勤

し。て。あ。ら。は。れ。終。み。ぞ。か。た。し。け

なまき

車僧

(外六)

る。雲水の。深。立つ。空も。冷。ま。し。く。

響。き。あ。ひ。て。車。路。は。な。け。れ。も。

も。聲。聲。に。愛。宕。お。嶺。ど。よ。じ。ま。で

わ。が。住。む。方。は。愛。宕。お。太。郎。坊。が

庵。室。に。御。り。あ。れ。や。車。僧。も

車僧

木下

四十三

裳羽衣の曲をなせば山河草木

●^(五) 國^(三)が豊^(一)にふ代^(二)萬代と舞^(三)ひ終^(四)く

ば。宮^(一)人^(二)駕^(三)輿^(四)下^(五)時^(六)輿^(七)を早^(八)め。君^(九)の

齡^(一)も長^(二)生^(三)殿^(四)に。君^(五)の齡^(六)も長^(七)生^(八)殿^(九)

い。還^(一)時^(二)なるこそ。め^(三)でた^(四)けれ^(五)

糸布刈 (外八)

●^(五) 花^(三)は波^(一)路^(二)の塵^(四)よりも。龍^(六)宮^(七)

の擗^(一)げお。天^(二)地^(三)ももに。海^(四)作^(五)の天^(六)

つ少女^(一)は雲^(二)ひのれ^(三)ば。翁^(四)は老^(五)の波^(六)

に。隠^(一)れ入^(二)り。絵^(三)ひけり^(四)や。隠^(五)れ入^(六)

らせ絵^(一)ひけり^(二)。端^(三)越^(四)少女^(五)返^(六)り。絵^(七)ひけり^(八)幸^(九)

●^(五) なり終^(一)くは。何^(二)に幸^(三)なり。絵^(四)

へば。虚^(一)空^(二)に音^(三)楽^(四)。松^(五)風^(六)に終^(七)く

て。皎^(一)月^(二)照^(三)く。異^(四)香^(五)薰^(六)ずる。龍^(七)女^(八)

は。彼^(一)もかぎ^(二)の袖^(三)を返^(四)すも

ま。舞^(一)み。たもとか^(二)な。天^(三)女^(四)舞^(五)止^(六)す返^(七)

四十四

四十四

●^(五) 舞^(一)子^(二)は天^(三)女^(四)舞^(五)止^(六)す返^(七)

以下拍子に合はず

大社

四十五

く跡に潮を満ちてもあはれ

く。荒海とながて。波白ぬのわ

たづみ和田の奈天を侵し雲の

波煙の波風海上に収まればは

風海上に収れば蛇體は龍宮

は飛んでぞ。うりにける

大社

(外八)

あらぶる神達の舞歌の袖ひ

くや津住連のなほたれと白

ホ綿かから玉垣は。立ちあふ

と見えつるが。神の峯うと云

ひ捨てて。社壇にうりにけり

社壇の内に入りけり

時雨る空も雲晴れて。月も輝く

玉の心殿に。光を添ふる。氣色が

な。われは。出雲の山崎に跡

大社

四十五

と垂れ。佛法を穿りの神。

本地十羅刹女の化現なり。

容顔美麗の女體の神。容顔

美麗の女體の神。光も輝く玉

の管かごも白み。袂を返す

夜遊の舞樂は。おもいろや

顔なき舞の袖。麻くや雲の

絶向より。諸神は疎らざる

ひ。舞樂を奏し神前に飛

は。やま姿を現し終と夕の

月も。雲晴れて。光も朱の玉

垣。輝き。神體現れおほく

神樂の役は。佳吉鹿嶋

訪。熱田。その外三千世界の諸神は

ここに影向なり。そりどりの小忌の袖

ここに影向なり。そりどりの小忌の袖

和歌集

和歌集

九示

四七

返す返すも面白か
(ヨイ合)
(三) 面白か
(天) 面白か
(初段) 面白か
(地) 面白か

樂も今は時過ぎて
(ウケ) 樂も今は時過ぎて
(ウケ) 樂も今は時過ぎて
(ウケ) 樂も今は時過ぎて
(ウケ) 樂も今は時過ぎて

は時過ぎて更け行く空も時
(地ノル地) は時過ぎて更け行く空も時
(ウケ) は時過ぎて更け行く空も時
(ウケ) は時過ぎて更け行く空も時
(ウケ) は時過ぎて更け行く空も時

雨るる雲の沖より颯風吹き
(ウケ) 雨るる雲の沖より颯風吹き
(ウケ) 雨るる雲の沖より颯風吹き
(ウケ) 雨るる雲の沖より颯風吹き
(ウケ) 雨るる雲の沖より颯風吹き

立つは海龍王の出現か
(ウケ) 立つは海龍王の出現か
(ウケ) 立つは海龍王の出現か
(ウケ) 立つは海龍王の出現か
(ウケ) 立つは海龍王の出現か

早笛止すは龍王ももられは海
(ウケ) 早笛止すは龍王ももられは海
(ウケ) 早笛止すは龍王ももられは海
(ウケ) 早笛止すは龍王ももられは海
(ウケ) 早笛止すは龍王ももられは海

龍王はわが事なりきても毎
(ウケ) 龍王はわが事なりきても毎
(ウケ) 龍王はわが事なりきても毎
(ウケ) 龍王はわが事なりきても毎
(ウケ) 龍王はわが事なりきても毎

龍宮より黄金の箱に小龍
(ウケ) 龍宮より黄金の箱に小龍
(ウケ) 龍宮より黄金の箱に小龍
(ウケ) 龍宮より黄金の箱に小龍
(ウケ) 龍宮より黄金の箱に小龍

を入れ神前に捧げ申すな
(ウケ) を入れ神前に捧げ申すな
(ウケ) を入れ神前に捧げ申すな
(ウケ) を入れ神前に捧げ申すな
(ウケ) を入れ神前に捧げ申すな

り龍神現れては龍神
(ウケ) り龍神現れては龍神
(ウケ) り龍神現れては龍神
(ウケ) り龍神現れては龍神
(ウケ) り龍神現れては龍神

則ち現れては波を拂ひ潮を退
(ウケ) 則ち現れては波を拂ひ潮を退
(ウケ) 則ち現れては波を拂ひ潮を退
(ウケ) 則ち現れては波を拂ひ潮を退
(ウケ) 則ち現れては波を拂ひ潮を退

け江にあがり寺箱をすゑお
(ウケ) け江にあがり寺箱をすゑお
(ウケ) け江にあがり寺箱をすゑお
(ウケ) け江にあがり寺箱をすゑお
(ウケ) け江にあがり寺箱をすゑお

ま。神前を拜し滑作せり
(ウケ) ま。神前を拜し滑作せり
(ウケ) ま。神前を拜し滑作せり
(ウケ) ま。神前を拜し滑作せり
(ウケ) ま。神前を拜し滑作せり

龍神時箱の蓋を忽ち開き小
(ウケ) 龍神時箱の蓋を忽ち開き小
(ウケ) 龍神時箱の蓋を忽ち開き小
(ウケ) 龍神時箱の蓋を忽ち開き小
(ウケ) 龍神時箱の蓋を忽ち開き小

龍を取らぬ。則ち神前に捧
(ウケ) 龍を取らぬ。則ち神前に捧
(ウケ) 龍を取らぬ。則ち神前に捧
(ウケ) 龍を取らぬ。則ち神前に捧
(ウケ) 龍を取らぬ。則ち神前に捧

九示

四七

大示

げ申し。海陸共に流る。時代の

げにありがたき。めぐみかな

舞働 止み返 静 四海安全に國作り

海安全に國作りて。五穀成 福

壽圓滿に。よよ君と守らん

いと。木綿四手の教。教神様より

どりに。清前を拂ひ。神あげの

おぬに。おらせ。終くば。龍神平地に

波浪を起し。逐巻く。朝に引か

れゆけば。諸神は。虚空に遍満

いつつ。げにあらたなる。神は

社内。げにあらたなる。神は社内

龍神は海中に。入りけり

東方朔

君。樞實と。聞し。召さば。心壽

命長遠に。御身も。息災なる

東方朔

東方朔

身ノ中

四十六

急ぎ玉母を伴ひ重ね

て糸肉申さむと庭上を立つ

て席る波の聲ばかり踏み

つづ。形は雲は入りけり

は雲は入りけり出端

そもこれほ仙郷に入つて年久

にき車方朝とはわが事なり

さてもわれ西王母が枕交を度度

服せしその故に壽命既に九千

歳に及ぶり彼の枕交を君に捧

げ申さんその誓ありいかに

いかに西王母もくく糸肉申す

不思議や西の空よりも

不思議や西の空よりも白雲

村々なるとんえんが三思の春

鳥翅をならべて飛び廻り姿

東方明

五十一

も娘なる王母の出で立ち光も
(地) 女放 (シカケ) ムスビアシライ
(ヨロシ) ムスビ段又

かかやく夜冠を恙し。班龍に糸
(手切) 手切 (三) 龍目 キヲロシ

とて頭れ給み。ああたりなる
(二) 龍ノル地 (手切) 女放キツメ
(三) 龍目 キヲロシ

奇持かな。王母は庭上にて坐
(手切) 手切 (手切) 手切 (手切) 手切
(三) 龍目 キヲロシ

み出で。王母は庭上にて歩み出でて
(地) 女放 (地) 長地中ケムスビアシライ
(三) 龍目 キヲロシ

彼の極矣と。持げ持つて。是に
(シカケ) 手切 (手切) 手切 (手切) 手切
(三) 龍目 キヲロシ

供へ。なれば。帝王清感の餘り
(初段) 女放 (地) 長地 (三) 龍目 キヲロシ

にや。系作の調。教を盡し。皆手
(シカケ) ムスビアシライ (手切) 手切 (手切) 手切
(三) 龍目 キヲロシ

同に。かなで給み。舞樂の秘曲は
(二) 龍目 キヲロシ (高判) (ヨロシ) ムスビ段又

おもは。ろわ。舞樂も漸
(天) 太鼓樂 序アリ (初段) 女放 (地) 長地
(三) 龍目 キヲロシ

漸時過ぎて。舞樂も漸時過ぎ
(手切) 手切 (手切) 手切 (手切) 手切
(三) 龍目 キヲロシ

て。夕陽西に傾きければ。おのお
(シカケ) ムスビアシライ (手切) 手切 (手切) 手切
(三) 龍目 キヲロシ

の君に。清暇申し。帰らんとせし
(三) 龍目 キヲロシ (地) 又キ地 (判) ムスビ長地二段目

に。帝王名。孫を惜み給ひ。重
(シカケ) ムスビアシライ (手切) 手切 (手切) 手切
(三) 龍目 キヲロシ

ねて。糸内申すべし。と。宜旨を
(初段) 女放 (地) 又キ地 (判) ムスビ長地段又

蒙り。二人は伴ひ。出でける。か。王
(シカケ) ムスビアシライ (手切) 手切 (手切) 手切
(三) 龍目 キヲロシ

母は班龍にゆらりとお入り

(三段) 赤放

(シカセ)

遙の雲路に攀ぢ上り遙の雲

(五段) ムスビ段

(赤放)

(三段) 赤放

路に攀ぢ上りて又天上にぞ

(再述) 赤放

(再述) 赤放

(再述) 赤放

降りける

(合込) (合込) (正アリ)

第六天

(外九)

かくて神前に心を澄ます

(アキラ) (アキラ) (アキラ)

かに俄に大空をえかたり

(ルコイ合) (ルコイ合)

(地計)

風雨雷電肝を清く

(赤放) 短地

震動おびたたりや

(赤放) 長地

(赤放) 赤放

(正) 赤放

れもそもろれは佛法を破却

(王ヨリ) (王ヨリ) (王ヨリ)

(コイ合) (コイ合) (コイ合)

する。第六天の魔王は我が

(シカセ) (ムスビ) (アキラ)

牽ひたり

(赤放) (赤放) (赤放)

(ウケ) (ウケ) (ウケ)

(シカセ) (赤放) (赤放)

誰ぞ六天には煩惱の悪魔

(カケ) (カケ) (カケ)

(コイ合) (コイ合) (コイ合)

(半刺) (半刺) (半刺)

魔王天子業魔

(赤放) (赤放) (赤放)

(ウケ) (ウケ) (ウケ)

類悟の道と障礙の群鬼は

(二段) ムスビニツネドリツメ

(再述) 赤放

(赤放) (赤放) (赤放)

まぎやなり

(再述) 赤放

(初段) (初段) (初段)

(赤放) (赤放) (赤放)

等

五十三

魔王は通が盡き果てて虚空

に跡なく失せにけり

舍利

(外九)

見る人の目をくらめて其の

縁に舍利を取つて天井を

蹴破り虚空に飛んであがる

と見えそが深かみ知らず

失せにけり行方も知らず失

せにけり・イロエ一段にてツレ出る

これはこの奇を守護に奉る

韋陀天も我がことなりて

に足疾鬼といふ外道在世の昔

の執心強つて又その舍利を取

てゆくいづくまでかは遁すべ

きその身舍利置いて行け

いや遁みまじとよこの佛舎

等

五十三

等

五十四

利は。唯も望の。あるもの。と。欲(初段)

界色界無色界。舞働止。欲界(初段)

色界無色界。化天。耶摩。天地。他(初段)

自在天。三十三天。摩訶。より。帝(初段)

釋天。まで。遊。ひ。あ。ぐ。れ。ば。梵。天(初段)

より。出。で。あ。ひ。給。ひ。て。も。あ。り。下。界(初段)

は。返。り。下。す。い。ま。左。へ。行。く。も。右(初段)

へ。ひ。く。も。前。後。も。天。地。も。寒。り。て(初段)

疾。鬼。は。虚。空。に。く。ら。く。る。と(初段)

湯。卷。い。廻。る。を。韋。鞞。天。立。ち。寄(初段)

寶。棒。に。て。疾。鬼。を。大。地。に。お。ち(初段)

伏。せ。て。首。を。踏。ま。く。て。牙。舎。利。は(初段)

い。か。に。出。だ。せ。や。出。だ。せ。と。せ。あ。ら(初段)

れ。て。な。く。な。く。舎。利。を。指。し。と。く(初段)

れば。韋。鞞。天。舎。利。を。取。り。終。へ(初段)

ば。さ。な。かり。今。迄。は。足。早。き。鬼(初段)

心金六

五十五

のいづつか今は是弱車(三良カラロシツ)の力も(三良カラロシツ)

盡(三良カラロシツ)ま心も花(三良カラロシツ)と起(三良カラロシツ)きあがりて

こそ失(三良カラロシツ)せに(三良カラロシツ)けれ(三良カラロシツ)

小鍛治(外九)

伊弉册(外九)のたにあら(外九)ず伊弉(外九)

諾伊弉册(外九)の天(外九)の浮(外九)檜(外九)を踏(外九)

みわたり(外九)。豊葦原(外九)を(外九)探(外九)り給(外九)ひ

ト帝(外九)系(外九)より始(外九)まれり(外九)。その後(外九)

南瞻僧伽陀國(外九)波斯弥陀尊(外九)者

よりその方(外九)天國(外九)ひつ(外九)ま(外九)の子孫(外九)に

傳へて今(外九)に至(外九)れり(外九)。孰(外九)は(外九)くは(外九)

孰(外九)は(外九)くは(外九)。宗近(外九)私(外九)の切名(外九)にあら(外九)

ず。普天(外九)率(外九)土(外九)の勅命(外九)によ(外九)れり(外九)。

さあら(外九)ば(外九)十(外九)方(外九)准(外九)沙(外九)の諸神(外九)唯今(外九)

の字近(外九)にか(外九)と合(外九)せて(外九)たび給(外九)くと

て。幣帛(外九)を捧(外九)げつ(外九)つ。天(外九)に(外九)作(外九)ぎ(外九)頭(外九)

小鍛治

五十五

八金次

五十六

と地につけ。骨髄の丹成圓き入(地) 長地

れ納受せしめ終へや。謹上再拜(地) 又キ地

早苗二段 止キ返ル(初段) 文 しかにかや宗近勅の劔(初段) 文

しかにかや宗近勅の劔。打つべき時(初段) 文

節は虚空にわたり。頼めや頼(初段) 文

め。ただたのめ。舞働止キ返ル(初段) 文 舞男壇の

上にあがり。童男壇の上にあがり(初段) 文

て。宗近に正襟の膝を屈し。打て(初段) 文

赤劔の鐵は。同へば。宗近も(初段) 文

恐悦の心を。さきさきして鐵あり(初段) 文

出。教の鐵を。はつたとおては(初段) 文

おちり。おつ。おちり。おちり(初段) 文

外。おちり。重ねたる。鐵の音。天地(初段) 文

に響きて。おびたたりや(初段) 文

合浦

(外十)

較。人。涙。は。玉。を。な。して。命。恩(初段) 文

合浦

五十二

を。寶珠をなほも捧げて合浦

に。も入らせ給へも前なる。渚

の。波の上にて入るよと見えつ

る。が白真となつてうのままに

ひれふして失せにけり

と釋尊に捧げ。變成乾の法を

な。し。奈落の底の白

真なれども。命恩を。報せ

ま。いて。たかたのぶにぞ。照れ

ま。らんと。波立ちまわぎ。げうが

舞。たる。舞働止む。舞

玉の。緒の。つ。れ。て。そ。真。如。の。玉。の。緒

の。壽命。長。遠。息。災。延。命。の。寶。の

玉。は。當。來。ま。で。の。二。世。の。頭。も。成

六。浦

六。浦

乾なぐー(シカセムスビアシライ)これまでななりや織(手切)

りつる綾の浦は合浦(カセウケ)。玉はふ(二段)

ただび(地ヌキ地)。序る波の千秋萬歳の(シカセムスビ段双)

寶の玉は(三段)。秋糸靴の寶の玉(手切)

合浦の浦にぞとさまりける(手切)

六浦(外十)

深き言の葉の露の懐に引か(手切)

れつる姿をまみえ教教(ヨイ合)に詞をか(手切)

はす仕遇の縁深き法を授(ヨイ合)

けつる佛果を得しめ終へぬ(ヨイ合)

更け行く月の夜遊を(ヨイ合)

色なき袖をわ返さ(ヨイ合)

秋の夜のふ夜を一夜(ヨイ合)

重ねたか詞残りて鳥や鳥(ヨイ合)

かまふ八聲の鳥も教教(ヨイ合)

八聲の鳥も教教に(ヨイ合)

六浦

五七

オロシ

ぎ苦患をえせよもの作と蒙

り。眩暈の燃え立つ熱鉄の音

を振り上げて空蟬の空蟬

の。殻は安婆にやとまるらん

霊は冥途にもぬけの衣の波

瑤の鏡の。いさぎよき面前に

引ひき引き向はあれん

安婆にての。罪科よ 舞動止

仕舞。てはいかに不思議かな。てはい

かに不思議かな。茶子の用み

か。か。か。鏡の影をよくと

見れば。鏡に玉釵。膚は金色兩

壁をかがみて手を合すればさ

ながら。菩薩の。産像かど空

に花ふり。虚空に音楽。聞かす

見もせぬ。冥途の奇持。すはわ

六十一

金
杖

三

地獄に墜るぞとて大地をかむは
(初段) 寺放
(シカケムスビ段)
(上ヨリ) ヲムスビ段

も踏みならし大地をかむはと
(寺放)
(三段) 寺放
(三段) 寺放

踏み破つて奈落の底にぞ入
(寺放)
(寺放)
(寺放)
(寺放)

りにける
(合)
(合)
(合)

金札

(外上)

嬉しきかなやいざさらばはら嬉しき
(鼓ヲ取ル)
(寺放)

かなやいざさらばはら松蔭に
(寺放)

松蔭にても唄く寅の時珠の
(寺放)
(寺放)

岩をも待ちてらん珠の岩をも
(寺放)
(寺放)

待ちてらん
(寺放)
(寺放)

わが國なればすめらぎの萬代
(寺放)

いづも限らま
(寺放)
(寺放)

いなさかゆく侍代と守の
(寺放)
(寺放)

るしんた重くせよ神とまきみ
(寺放)
(寺放)

重くすべしや重くすべしや
(寺放)
(寺放)

金の神の神體光もあらた
(寺放)
(寺放)

金
杖

三

ひびくえんたまき (手込) ムスビキ
四海を治め (初段) ウケ
御 (手込) ムスビキ
た (手込) ムスビキ

姿 (手込) ムスビキ
四海を治め (初段) ウケ
御姿 (手込) ムスビキ
あらた (手込) ムスビキ

に見よ (手込) ムスビキ
や君守 (手込) ムスビキ
八百萬代 (手込) ムスビキ
の (手込) ムスビキ

悪魔降伏 (手込) ムスビキ
の (手込) ムスビキ
真 (手込) ムスビキ

如の (手込) ムスビキ
概引 (手込) ムスビキ
五 (手込) ムスビキ
月 (手込) ムスビキ
蠅 (手込) ムスビキ

なす (手込) ムスビキ
荒ぶ (手込) ムスビキ
神 (手込) ムスビキ
籬 (手込) ムスビキ

その (手込) ムスビキ
神 (手込) ムスビキ
詔 (手込) ムスビキ
は (手込) ムスビキ
救 (手込) ムスビキ
救 (手込) ムスビキ
に (手込) ムスビキ
左 (手込) ムスビキ
も (手込) ムスビキ
右 (手込) ムスビキ
も (手込) ムスビキ
神 (手込) ムスビキ
籬 (手込) ムスビキ

かの (手込) ムスビキ
悪魔 (手込) ムスビキ
を (手込) ムスビキ
舐 (手込) ムスビキ
拂 (手込) ムスビキ
ひ (手込) ムスビキ
濟 (手込) ムスビキ
とな (手込) ムスビキ
す (手込) ムスビキ

も (手込) ムスビキ
金胎 (手込) ムスビキ
兩部 (手込) ムスビキ
の (手込) ムスビキ
か (手込) ムスビキ
た (手込) ムスビキ
ち (手込) ムスビキ
な (手込) ムスビキ
り (手込) ムスビキ

仕舞 (手込) ムスビキ
舞 (手込) ムスビキ
働 (手込) ムスビキ
止 (手込) ムスビキ
た (手込) ムスビキ
て (手込) ムスビキ
も (手込) ムスビキ
治 (手込) ムスビキ
る (手込) ムスビキ
國 (手込) ムスビキ
な (手込) ムスビキ
れ (手込) ムスビキ
ば (手込) ムスビキ

な (手込) ムスビキ
れ (手込) ムスビキ
や (手込) ムスビキ
君 (手込) ムスビキ
は (手込) ムスビキ
船 (手込) ムスビキ
長 (手込) ムスビキ
は (手込) ムスビキ
瑞 (手込) ムスビキ
徳 (手込) ムスビキ
の (手込) ムスビキ

國 (手込) ムスビキ
も (手込) ムスビキ
豊 (手込) ムスビキ
に (手込) ムスビキ
治 (手込) ムスビキ
る (手込) ムスビキ
代 (手込) ムスビキ
な (手込) ムスビキ
れ (手込) ムスビキ
ば (手込) ムスビキ
東 (手込) ムスビキ
夷 (手込) ムスビキ

西 (手込) ムスビキ
戎 (手込) ムスビキ
南 (手込) ムスビキ
蛮 (手込) ムスビキ
北 (手込) ムスビキ
狄 (手込) ムスビキ
の (手込) ムスビキ
恐 (手込) ムスビキ
な (手込) ムスビキ
け (手込) ムスビキ
れ (手込) ムスビキ
ば (手込) ムスビキ

弓 (手込) ムスビキ
を (手込) ムスビキ
は (手込) ムスビキ
づ (手込) ムスビキ
り (手込) ムスビキ
を (手込) ムスビキ
納 (手込) ムスビキ
め (手込) ムスビキ
君 (手込) ムスビキ
も (手込) ムスビキ
す (手込) ムスビキ

な (手込) ムスビキ
ほ (手込) ムスビキ
に (手込) ムスビキ
氏 (手込) ムスビキ
と (手込) ムスビキ
守 (手込) ムスビキ
の (手込) ムスビキ
寺 (手込) ムスビキ
柁 (手込) ムスビキ
は (手込) ムスビキ
宮 (手込) ムスビキ
に (手込) ムスビキ
納 (手込) ムスビキ

な (手込) ムスビキ
ほ (手込) ムスビキ
に (手込) ムスビキ
氏 (手込) ムスビキ
と (手込) ムスビキ
守 (手込) ムスビキ
の (手込) ムスビキ
寺 (手込) ムスビキ
柁 (手込) ムスビキ
は (手込) ムスビキ
宮 (手込) ムスビキ
に (手込) ムスビキ
納 (手込) ムスビキ

肩舟

三十三

り・終くば・影さ・おろす・玉簾(手切)

影さ・おろす・玉簾(手切)の・ゆるが(手切)

ぬ・清代とぞ・なりけり(合込)

岩船(外十二)

げに今もとも神の代のげに今も(鼓ヲ取ル)

ても神の代の誓はつきぬしる

しとそ・神と君との御惠・真な(キクシク)

りけり有強や・眞なりけり有(及ニツ)

雞や・早笛・止(シテ上)・われはるれ下界(コイ合)

に任んで神を敬ひ君を守る秋(コイ合)

津嶋根の龍神なり・あるひは(シカケ)

神代の嘉例をうづし・又は(トシ)

る清代に出でて・寶の清糸と(シカケ)

守護し奉り・勅もおもしや(シカケ)

勅もおもしや・岩子ね・寶(シカケ)

とよする波の鼓・拍子を揃へて(シカケ)

言公

六十四

舟

舟

えいやはえいやは (カケ切) 引けや岩解 (シカケムスビアマシライ) 天 (シカケムスビアマシライ)

の探女は (チ切) 波の腰鼓 (チ切) ていとうの (チ切)

拍子ど (三段) 打つなりや (三段) さざら波 (地) 経 (チ切)

廻り廻りて (シカケムスビアマシライ) 往吉の (チ切) 松の風 (チ切) 吹き (チ切)

寄せよ (ウエウケ) えいさ (五段目) えいさ (チ切) えいさ (チ切) えいさ (チ切) えいさ (チ切)

おす (初段) やから (チ切) 船の (地) おす (地) やから (チ切) 船 (チ切)

仕舞 (シカケムスビアマシライ) の (チ切) 潮の満ちくる (チ切) 波に (チ切) 浮んで (チ切) 八 (チ切)

犬龍 (二段) は (チ切) 海上に (チ切) 飛 (チ切) 係 (チ切) 船 (チ切) の (チ切)

綱手 (地) と (チ切) 糸に (チ切) くり (チ切) から (チ切) ま (チ切) き (チ切) 潮 (チ切) に (チ切)

引かれ (チ切) 波に (チ切) 乗 (チ切) りて (チ切) 長 (チ切) 舟 (チ切) も (チ切) め (チ切) て (チ切)

た (初段) き (チ切) 住 (チ切) 吉 (チ切) の (チ切) 岸 (チ切) に (チ切) 寶 (チ切) の (チ切) 舟 (チ切) 祿 (チ切) を (チ切)

ま (地) げ (チ切) 納 (チ切) め (チ切) 教 (チ切) も (チ切) 教 (チ切) 萬 (チ切) の (チ切) 持 (チ切) 物 (チ切) 運 (チ切)

び (二段) 出 (チ切) す (チ切) や (チ切) 心 (チ切) の (チ切) 如 (チ切) く (チ切) 金 (チ切) 銀 (チ切) 珠 (チ切) 玉 (チ切) は (チ切)

降 (地) り (チ切) 備 (チ切) ち (チ切) て (チ切) 山 (チ切) の (チ切) 如 (チ切) く (チ切) 津 (チ切) 守 (チ切) の (チ切)

浦 (三段) に (チ切) 君 (チ切) を (チ切) 守 (チ切) り (チ切) の (チ切) 神 (チ切) は (チ切) お (チ切) 代 (チ切) ま (チ切)

で (チ切) 榮 (チ切) ゆ (チ切) る (チ切) 津 (チ切) 代 (チ切) も (チ切) ぞ (チ切) な (チ切) り (チ切) け (チ切) る (チ切)

弦

弦

絵上

(外十三)

今は何をか色むべき。われ絵上の

主たりし。村上の天皇御壺の

女御夫婦なり。御身の入唐留

め。ため。夢中。に。ま。み。え。須。磨。の

浦。故。院。の。昔。の。夢。の。告。思。ひ。出。で

よ。人。と。て。か。き。消。す。や。う。に。失。せ

絵。み。か。き。消。す。や。う。に。失。せ。絵。み

出端 二段 止フイ合 後シテ上 (コイ合) コイ合

喜登代の御讓。村上の天皇と

わが事なり。その聖代の清守

か。よ。唐。土。より。三。面。の。琵琶。を

渡。さ。ら。る。絵。と。青。山。の。獅子。丸。て。れ。な

り。さ。ら。る。絵。に。獅子。は。龍。宮。へ。取

られ。を。い。で。る。に。出。し。弾。が

せん。と。優。漫。な。海。上。に。向。ひ。い

絵上

外十三

かへ下界の龍神愆に聞け。獅(地) 初段 長地 寺行

子丸持筆。佐(寺込) ムスビ寺込早(寺込) ムスビ寺込笛一段止(寺込) ムスビ寺込獅子(初段) ムスビ寺込

丸(寺込) ムスビ寺込浮(寺込) ムスビ寺込ふとん(寺込) ムスビ寺込え(寺込) ムスビ寺込か(寺込) ムスビ寺込ば(寺込) ムスビ寺込ハ(寺込) ムスビ寺込大(寺込) ムスビ寺込龍(寺込) ムスビ寺込女(寺込) ムスビ寺込を(寺込) ムスビ寺込

引(寺込) ムスビ寺込き(寺込) ムスビ寺込連(寺込) ムスビ寺込れ(寺込) ムスビ寺込引(寺込) ムスビ寺込き(寺込) ムスビ寺込連(寺込) ムスビ寺込れ(寺込) ムスビ寺込か(寺込) ムスビ寺込の(寺込) ムスビ寺込御(寺込) ムスビ寺込琴(寺込) ムスビ寺込

琴(寺込) ムスビ寺込を(寺込) ムスビ寺込授(寺込) ムスビ寺込け(寺込) ムスビ寺込給(寺込) ムスビ寺込ば(寺込) ムスビ寺込。師(寺込) ムスビ寺込長(寺込) ムスビ寺込賜(寺込) ムスビ寺込り(寺込) ムスビ寺込

弾(寺込) ムスビ寺込き(寺込) ムスビ寺込な(寺込) ムスビ寺込ら(寺込) ムスビ寺込し(寺込) ムスビ寺込。ハ(寺込) ムスビ寺込大(寺込) ムスビ寺込龍(寺込) ムスビ寺込玉(寺込) ムスビ寺込も(寺込) ムスビ寺込絵(寺込) ムスビ寺込巻(寺込) ムスビ寺込の(寺込) ムスビ寺込

役(寺込) ムスビ寺込或(寺込) ムスビ寺込は(寺込) ムスビ寺込彼(寺込) ムスビ寺込の(寺込) ムスビ寺込鼓(寺込) ムスビ寺込を(寺込) ムスビ寺込打(寺込) ムスビ寺込て(寺込) ムスビ寺込ば(寺込) ムスビ寺込。或(寺込) ムスビ寺込

は(寺込) ムスビ寺込民(寺込) ムスビ寺込琴(寺込) ムスビ寺込の(寺込) ムスビ寺込名(寺込) ムスビ寺込に(寺込) ムスビ寺込負(寺込) ムスビ寺込み(寺込) ムスビ寺込。獅(寺込) ムスビ寺込子(寺込) ムスビ寺込團(寺込) ムスビ寺込

乱(寺込) ムスビ寺込旋(寺込) ムスビ寺込に(寺込) ムスビ寺込村(寺込) ムスビ寺込上(寺込) ムスビ寺込の(寺込) ムスビ寺込天(寺込) ムスビ寺込皇(寺込) ムスビ寺込も(寺込) ムスビ寺込奏(寺込) ムスビ寺込で(寺込) ムスビ寺込給(寺込) ムスビ寺込み(寺込) ムスビ寺込

面(寺込) ムスビ寺込白(寺込) ムスビ寺込か(寺込) ムスビ寺込り(寺込) ムスビ寺込け(寺込) ムスビ寺込る(寺込) ムスビ寺込。秘(寺込) ムスビ寺込曲(寺込) ムスビ寺込か(寺込) ムスビ寺込な(寺込) ムスビ寺込早(寺込) ムスビ寺込舞(寺込) ムスビ寺込止(寺込) ムスビ寺込ま(寺込) ムスビ寺込り(寺込) ムスビ寺込返(寺込) ムスビ寺込

獅(寺込) ムスビ寺込子(寺込) ムスビ寺込に(寺込) ムスビ寺込は(寺込) ムスビ寺込文(寺込) ムスビ寺込珠(寺込) ムスビ寺込や(寺込) ムスビ寺込忍(寺込) ムスビ寺込ぶ(寺込) ムスビ寺込ら(寺込) ムスビ寺込ん(寺込) ムスビ寺込。帝(寺込) ムスビ寺込

子(寺込) ムスビ寺込に(寺込) ムスビ寺込は(寺込) ムスビ寺込文(寺込) ムスビ寺込珠(寺込) ムスビ寺込や(寺込) ムスビ寺込忍(寺込) ムスビ寺込ぶ(寺込) ムスビ寺込ら(寺込) ムスビ寺込ん(寺込) ムスビ寺込。帝(寺込) ムスビ寺込

は(寺込) ムスビ寺込志(寺込) ムスビ寺込行(寺込) ムスビ寺込の(寺込) ムスビ寺込車(寺込) ムスビ寺込に(寺込) ムスビ寺込繫(寺込) ムスビ寺込じ(寺込) ムスビ寺込。ハ(寺込) ムスビ寺込大(寺込) ムスビ寺込龍(寺込) ムスビ寺込女(寺込) ムスビ寺込に(寺込) ムスビ寺込

引(寺込) ムスビ寺込か(寺込) ムスビ寺込れ(寺込) ムスビ寺込給(寺込) ムスビ寺込ば(寺込) ムスビ寺込。師(寺込) ムスビ寺込長(寺込) ムスビ寺込も(寺込) ムスビ寺込志(寺込) ムスビ寺込馬(寺込) ムスビ寺込に(寺込) ムスビ寺込鞭(寺込) ムスビ寺込

を(寺込) ムスビ寺込お(寺込) ムスビ寺込ち(寺込) ムスビ寺込。馬(寺込) ムスビ寺込上(寺込) ムスビ寺込に(寺込) ムスビ寺込民(寺込) ムスビ寺込琴(寺込) ムスビ寺込を(寺込) ムスビ寺込。携(寺込) ムスビ寺込へ(寺込) ムスビ寺込て(寺込) ムスビ寺込

終

淡路の月春の夜も長軍なる。
(シカケムスビ) (ヨイ合) ヨイ合

翠の空も澄み渡る。天の浮橋の
(シカケムスビ) ヨイ合

上にて。八洲の國を求めえし。

伊弉諾の神とは我が事なり。
(シカケムスビ) (ヨイ合) ヨイ合

治まるや。國常立の始より。
(シカケムスビ) (ヨイ合) ヨイ合

つ五つの神の代の。神楽は今に。
(吉ヨリ) (ヨイ合) ヨイ合

君の代より。和光守護神の扶。
(シカケムスビ) (ヨイ合) ヨイ合

桑の青國に。月は次けども山。
(シカケムスビ) (ヨイ合) ヨイ合

は動せず。神舞。止すは謠みき切。
(以下指した合口す) (正ノナ止ナアリ)

室君

(別二)

ヨラらば序神樂を。集らせう

ずるにて候。こここそても。室山。
(アルアシライ) (ルアシライ) (推)

海神の神垣の。賀茂の宮居候。
(地寺放) (新出シ) (地寺放) (長地寺)

有能や。神樂。月影の。月影。
(シカケ) (ウケ) (ウケ) (ウケ)

の。更け行くままに。風をさま。
(シカケムスビ) (アシライ) (ウケ) (ウケ)

れば。不思議や。異香薫。つづ。
(ウケ) (ウケ) (ウケ) (ウケ)

室

和光の舞迹 韋提希夫人の安

を現におはり ます

舞玉の 舞玉の 舞玉の 舞玉の

綾の袂 風はたなびく 瑞雲に

兼じ 所は室の海なれや

山はぐりて 止求善提の機を

すすめ 海は下りて 下化衆生

の 相を現 五濁の水は 實相

無漏の大海となつて 花ふり

異香薫 相好真に 肝に

銘に 感涙袖を 潤せば はや

明け行くや 春の夜の はや

けがの 雲に 乘りて 虚空にあ

がらせ 給ひけり

破 潜

(別二ノ三)

待望いざ 帛はん 教の いざ 帛はん

定 替

三

救救の法の中にも一乗の如なる

花のひもとききて。昔の衣の玉なら

は。終に志はくらからじ終に志

はくらからじ。早苗良歩走。すは又修

羅の合戦の始まるぞや。敵は必

ずの産船を取りとむべけれ。雑

兵どもとのうおき。皆兵船に

うり給ひ。かくつて敵をとりと

めんと。一門のくぐは。兵船にこそ

うりけれ。修羅の戦始れば

修羅の戦始れば。源氏の軍兵

その救済みて。彼の産船には

目もかけず。ただ兵船にぞかか

りける。平家の公達艦船にま

り。平家の公達艦船に立ち

渡り矢先を揃へ。切先を並べて

石

石

飛

石

破
洞

寄せくる敵を侍らかけたり

中にも盛進み出でて大難刀

と並長に取りのべ左を薙ぎて

は存りを拂ひ多くの敵をせ

しけるが今はなれまで沈ま

とて鎧二領に兜二はねなほも

その身を重くなさんと遙かな

る仲の遠の大綱えいわえいわ

と引きよけて魁の上は遠を戴

き兜の上は遠を戴きて海底

に飛んでぞ入りけり

枕慈童
大小合方観世流
太鼓と変りなし
(別三四)

いいでいで舞樂を奏うつこの客

人を慰めんと西に向ひてうち

振けば西に向ひてうち振けば

崑崙山に住居なす王母にか

枕
洞

五

木更草

しづく(イ合)仙女の(イ合)教(イ合)教(イ合)樂(イ合)器(イ合)を手(イ合)ん

手に(イ合)携(イ合)へて(イ合)雲(イ合)に(イ合)飛(イ合)ぶ(イ合)て(イ合)怨(イ合)來(イ合)

り(イ合)。圓(イ合)き(イ合)も(イ合)な(イ合)れ(イ合)ざる(イ合)仙(イ合)樂(イ合)と(イ合)奏(イ合)

せ(イ合)ば(イ合)。急(イ合)ぎ(イ合)は(イ合)ち(イ合)ら(イ合)出(イ合)で(イ合)て(イ合)舞(イ合)と(イ合)

かな(イ合)づ(イ合)る(イ合)姿(イ合)も(イ合)。た(イ合)と(イ合)や(イ合)か(イ合)に(イ合)面(イ合)白(イ合)

●独吟
●任舞
や(イ合)。太(イ合)鼓(イ合)樂(イ合)止(イ合)ま(イ合)ち(イ合)遠(イ合)。圓(イ合)より(イ合)薬(イ合)の(イ合)氷(イ合)な(イ合)れ(イ合)

ば(イ合)。圓(イ合)より(イ合)薬(イ合)の(イ合)氷(イ合)な(イ合)れ(イ合)ば(イ合)。そ(イ合)の(イ合)

身(イ合)も(イ合)衰(イ合)ら(イ合)ず(イ合)。百(イ合)歳(イ合)を(イ合)既(イ合)に(イ合)經(イ合)

たり(イ合)や(イ合)な(イ合)ほ(イ合)こ(イ合)と(イ合)ぶ(イ合)き(イ合)は(イ合)。限(イ合)あ(イ合)ら(イ合)

し(イ合)な(イ合)。限(イ合)あ(イ合)ら(イ合)し(イ合)な(イ合)こ(イ合)の(イ合)清(イ合)薬(イ合)を(イ合)

奉(イ合)ら(イ合)ん(イ合)と(イ合)。玉(イ合)の(イ合)癩(イ合)を(イ合)兩(イ合)り(イ合)出(イ合)で(イ合)て(イ合)

薬(イ合)の(イ合)水(イ合)を(イ合)。み(イ合)づ(イ合)か(イ合)ら(イ合)汲(イ合)み(イ合)入(イ合)れ(イ合)。物(イ合)

使(イ合)に(イ合)。れ(イ合)を(イ合)捧(イ合)げ(イ合)つ(イ合)つ(イ合)。所(イ合)は(イ合)。巖(イ合)窟(イ合)

躡(イ合)の(イ合)山(イ合)路(イ合)の(イ合)菊(イ合)の(イ合)水(イ合)。ゆ(イ合)め(イ合)や(イ合)。撮(イ合)べ(イ合)

や(イ合)飲(イ合)む(イ合)も(イ合)。盡(イ合)ま(イ合)い(イ合)し(イ合)。ゆ(イ合)め(イ合)や(イ合)。む(イ合)す(イ合)

べ(イ合)や(イ合)。飲(イ合)む(イ合)も(イ合)。盡(イ合)ま(イ合)い(イ合)せ(イ合)ぬ(イ合)。踏(イ合)と(イ合)。延(イ合)

木更草

木更草

飛雲

ぶらめてたきよ(合込)

飛雲(別二五)

あら恋の氣色やな(合込) 小夜も粧(合込)

に更け方の影暗き山中に

浮くべき旅もあらざれば(冬) あり

ななりける夢の告と頼をか

けて讀講する(ルイ合) 南をや剛山(地) 放長地 俊

の優婆塞。殊には三徳野三所

権現。かき添へてたびたす(初段)

思儀や我我たる石根に(初段) 不思議(ウケ)

や我我たる石根に(判二) 黒雲一叢起(手切)

ると見えが谷峯一同に響(初段)

き震動し。盤石を碎き。木と(地)

おる嵐に先だち(高刺) 飛ぶ雲の光の(手切)

中に現れおづる鬼神の姿。面と(三段目)

むべきやうぞなき(手切) 舞働 歩ち込手送

飛雲

飛雲

東方に降三世明王 南方に軍荼
利夜叉明王 西方に大威徳明
王 北方に金剛夜叉明王 中央

に大日大聖不動明王 唵呼嚕

呼嚕旋荼利摩登担娑婆訶

●仕舞 唵阿毘羅囉唵欠娑婆訶 鬼神

の通か忽に鬼神の通か忽に

が飛行をなしてあがらんと

すれども大地に倒れ伏し起き

つまろびつばと身を責め若む氣

色に行者の威がいよいよ増る

代代に妻らぬ男山 作ぐ嶺よ

り月影のさやかに出でて隈

放生川 (別三ノ二)

鼓ヲ取ル

代代に妻らぬ男山

り月影のさやかに出でて隈

放生川

鼓ヲ取ル

も^ハなく^ハ。光^ハと^ハも^ハに^ハ夜^ハ神^ハ樂^ハ

の^ハ聲^ハ澄^ハみ^ハと^ハる^ハ。氣^ハ色^ハかな^ハ聲^ハ

澄^ハみ^ハと^ハる^ハ。氣^ハ色^ハかな^ハ出^ハ端^ハ越^ハ止^ハコイ合

有^ハ秘^ハや^ハ百^ハ玉^ハ守^ハ護^ハの^ハ日^ハの^ハ光^ハゆ^ハた

か^ハに^ハ照^ハす^ハ天^ハが^ハ下^ハ。幾^ハ萬^ハ代^ハの^ハ秋^ハな

ら^ハん。秘^ハ光^ハの^ハ影^ハも^ハ年^ハを^ハ經^ハて^ハ神^ハと

君^ハと^ハに^ハ使^ハく^ハの^ハ旨^ハ。我^ハ内^ハと^ハ申^ハす^ハ老

ん^ハなり^ハ。社^ハは^ハ各^ハ出^ハ現^ハして^ハけ

ふ^ハ侍^ハら^ハ得^ハた^ハら^ハ放^ハ生^ハの^ハ神^ハの^ハ心^ハ奉

と^ハ早^ハむ^ハれ^ハば^ハ。馬^ハ前^ハ飛^ハび^ハ去^ハる^ハ。戀

の^ハ嶺^ハ。山^ハ下^ハに^ハ連^ハな^ハら^ハ神^ハ拜^ハの^ハ社^ハ人

小^ハ忌^ハの^ハ夜^ハの^ハ袖^ハを^ハ連^ハね^ハ。子^ハ早^ハぶ^ハる

なり^ハあ^ハま^ハ如^ハ女^ハ。久^ハ方^ハの^ハ月^ハの^ハ桂^ハの

男^ハ山^ハ。山^ハ下^ハに^ハ連^ハな^ハら^ハ影^ハは^ハ所^ハから

真^ハ序^ハ止^ハた^ハ強^ハみ^ハ切^ハ
(止^ハキ^ハ上^ハ止^ハマ^ハリ)

須^ハ磨^ハ保^ハ氏^ハ
(別^ハ三^ハノ^ハ二)

持論 須磨の浦。野山の月に旅寝し

野山の月に旅寝して心とす

ます磯松。波にたぐへて音楽の

聞ゆる聲ぞ有雅き聞ゆる聲

どありがたまき出端越止

白の海をやなわれ安寝にあり

し時は愁深氏といはれ今は鬼

率にかぐり。天上の住居なれど

か月に詠じて圖字にくたり

所も須磨の浦なれば青海波

の遊舞樂に引かれて月の夜

げの波返すなる波の花散る白

衣の袖玉の笛の音聲澄み度

る望笛琴の聲候。孤雲のひびき

天もうつるや須磨の浦の荒

海の波風。早舞止む義者切

胡蝶

(別三三)

〔鼓ヲ取ル〕
ハトモはいかて夕暮にかほす言葉

の花の色隔てぬ梅に飛び翔り

て胡蝶は誘はれなまじ心あ

りて八重山吹も隔てぬ梅の花

に飛びかゝ胡蝶の舞の袂も白

仕舞 独吟
ふ。素色かな太鼓舞 歩みは返 四季折折

の花ざかり。四季折折の花ざか

り。梢に心をかけまくもか

こき宮の前から。あめの内野も

程近く。野花黄鳥春風を鎮し

花前に蝶舞み紛紛たる。雪を

めぐらす舞の袖かへすがくす

も。おもいろや。春夏秋冬の花

も盡きて。春夏秋冬の花も盡き

て。霜を帯びたる。白朶の花

百七

百七

折り残す。枝を廻り。廻り廻る。
(初段) 未放 (地) 長地 (利二) 長地

や小車の法に引かれて佛果に。
(地) (ツケムスニ段目) (五切) (五切)

至る。胡蝶も歌舞の善慶の舞。
(三) 未放 (三) 未放 (三) 未放 (三) 未放

の姿を疎すや春の夜の明け。
(地) 長地 (利三) 長地 (地) (ツケムスニ段目)

行く雲に羽根うちかほし。月。
(五切) (五切) (三) 未放 (三) 未放

け行く雲に羽根うちかほし。月。
(五切) (五切) (三) 未放 (三) 未放

霞に紛れて。失せにけり。
(五切) (五切) (三) 未放 (三) 未放

一角仙人
(別三五)

面白や盃の。面白や盃の。廻。
(下) (ツケムスニ段目) (三) 未放 (三) 未放

る光も照りそみや。紅葉の。
(三) 未放 (三) 未放 (三) 未放 (三) 未放

袂を共に翻し。舞樂の。
(三) 未放 (三) 未放 (三) 未放 (三) 未放

曲が面白き。太鼓樂ニ段目上り舞。舞樂の。
(初段) 未放 (初段) 未放 (初段) 未放 (初段) 未放

の調よりどり。糸竹の調より。
(初段) 未放 (初段) 未放 (初段) 未放 (初段) 未放

どり。さす盃も。度度廻れば。走。
(五切) (五切) (五切) (五切) (五切) (五切)

人の情に心を移し。仙人は。決。走。
(三) 未放 (三) 未放 (三) 未放 (三) 未放

は弱車の廻るも。ただよみ舞の。
(高) 未放 (高) 未放 (高) 未放 (高) 未放

徒を片敷き臥せば。主人は惚ひ

官人を引き連れ遙途なりし山路

を凌ぎ。帝都に帰らせ給ひけ

り

心と速はし。吾等の酒に酔ひ酔して

通かを失ふ。天羅の報の程を思

ひ。山風あらく吹き落ちて。空かき

曇り。岩屋も俄に揺ぐと見え

しが磐石四方に破れ砕けて。諸

龍の姿は。現れたり。舞働止す

人驚き騒ぎ。利剣をおつとり立

ち向へば。龍王は黄金の甲冑を

兼し。玉具の劔の双光を揃へ

り

り

り

百

三

時が程は。圃ひけるが。仙人神通

の。か。も。掲。ま。て。決。死。に。弱。り。倒

れ。伏。せ。ば。龍。王。悦。び。雲。を。穿。ち。雷

鳴。電。光。天。地。に。満。ち。て。大。雨。を。降

ら。し。洪。水。を。出。だ。し。て。立。つ。白。波。に

飛。び。移。り。ま。る。白。波。に。飛。び。移。り

て。ま。た。龍。宮。に。ぞ。帰。り。け。る

三災

又。陸。脩。靜。は。宋。の。明。帝。の

御。時。に。仙。の。法。を。学。ん。で。陸。道

士。と。申。す。と。か。後。は。何。當。ぶ。の

簡。寂。觀。は。隱。居。し。て。ま。ま

せ。り。こ。の。人。は。天。下。に。も。五

ぶ。方。も。な。き。事。な。れ。ば。廬。山。の

虎。溪。に。も。方。ら。ぬ。光。な。り。け。り

菊。の。白。露。積。り。積。つ。て。不。老。不。死

の薬の泉よも盡きた (判) (地) 長地キツにも 地上の刀元 (シカケ) 初段キツ 幾萬代 (シカケ) 初段キツ

も限ら (初段) 初段 な (初段) 初段 子 (初段) 初段 盃の廻る夜 (初段) 初段

も (初段) 初段 子 (初段) 初段 盃の廻る夜 (初段) 初段 も (初段) 初段 明 (初段) 初段 くれ (初段) 初段 ば (初段) 初段

を (初段) 初段 白 (初段) 初段 菊 (初段) 初段 の (初段) 初段 花 (初段) 初段 を (初段) 初段 看 (初段) 初段 に (初段) 初段 立 (初段) 初段 ち (初段) 初段

舞 (初段) 初段 小 (初段) 初段 袂 (初段) 初段 酒 (初段) 初段 狂 (初段) 初段 の (初段) 初段 舞 (初段) 初段 と (初段) 初段 や (初段) 初段 人 (初段) 初段 の (初段) 初段 心 (初段) 初段

太鼓樂 (初段) 初段 半 (初段) 初段 謡 (初段) 初段 カケ (初段) 初段 萬 (初段) 初段 代 (初段) 初段 と (初段) 初段 萬 (初段) 初段 代 (初段) 初段 と (初段) 初段 萬 (初段) 初段 代 (初段) 初段

と (初段) 初段 ね (初段) 初段 は (初段) 初段 久 (初段) 初段 き (初段) 初段 例 (初段) 初段 な (初段) 初段 り (初段) 初段 松 (初段) 初段 は (初段) 初段 久 (初段) 初段 し (初段) 初段

舞 (初段) 初段 き (初段) 初段 例 (初段) 初段 な (初段) 初段 り (初段) 初段 華 (初段) 初段 と (初段) 初段 老 (初段) 初段 松 (初段) 初段 も (初段) 初段 緑 (初段) 初段 は (初段) 初段 碧 (初段) 初段

木 (初段) 初段 の (初段) 初段 眼 (初段) 初段 小 (初段) 初段 松 (初段) 初段 四 (初段) 初段 季 (初段) 初段 も (初段) 初段 同 (初段) 初段 じ (初段) 初段 葉 (初段) 初段

色 (初段) 初段 の (初段) 初段 常 (初段) 初段 盤 (初段) 初段 木 (初段) 初段 の (初段) 初段 松 (初段) 初段 葉 (初段) 初段 と (初段) 初段 愛 (初段) 初段 加 (初段) 初段

な (初段) 初段 た (初段) 初段 こ (初段) 初段 な (初段) 初段 た (初段) 初段 へ (初段) 初段 足 (初段) 初段 も (初段) 初段 さ (初段) 初段 は (初段) 初段 泥 (初段) 初段 泥 (初段) 初段

泥 (初段) 初段 と (初段) 初段 苔 (初段) 初段 む (初段) 初段 す (初段) 初段 橋 (初段) 初段 と (初段) 初段 井 (初段) 初段 よ (初段) 初段 ろ (初段) 初段 め (初段) 初段 き (初段) 初段 終 (初段) 初段 へ (初段) 初段

ば (初段) 初段 御 (初段) 初段 陸 (初段) 初段 を (初段) 初段 右 (初段) 初段 に (初段) 初段 今 (初段) 初段 鐵 (初段) 初段 釘 (初段) 初段 給 (初段) 初段 ひ (初段) 初段 て (初段) 初段 虎 (初段) 初段

溪 (初段) 初段 を (初段) 初段 遠 (初段) 初段 に (初段) 初段 出 (初段) 初段 て (初段) 初段 終 (初段) 初段 へ (初段) 初段 ば (初段) 初段 御 (初段) 初段 陸 (初段) 初段 禪 (初段) 初段 師 (初段) 初段

に (初段) 初段 き (初段) 初段 て (初段) 初段 禁 (初段) 初段 足 (初段) 初段 は (初段) 初段 破 (初段) 初段 ら (初段) 初段 せ (初段) 初段 給 (初段) 初段 み (初段) 初段 か (初段) 初段 そ (初段) 初段

一 (初段) 初段 度 (初段) 初段 に (初段) 初段 ぞ (初段) 初段 り (初段) 初段 と (初段) 初段 手 (初段) 初段 を (初段) 初段 ら (初段) 初段 ち (初段) 初段 笑 (初段) 初段 つ (初段) 初段 て (初段) 初段

雨月

十五

松の英遠の深風。多胡の浦回。

に吹きよすも音さゆる。彼も

綾ぞら舞の徒。月にひるがへす

影もうつろや。紫の影もうつろ

や。雲の曙にかたりて。たなび

く霞に。入りけり。

雨月 (太鼓習) (別五ノ二)

はや夜も更けたり。旅人も御休みいへ。

ここは固より所から。年も津糸

の小麻なれば。われも老衰の眠

深き夢にかへる。古む。松が根

枕して。共いざや。まどろまん

出端越 歩イ合 後テ上ニ (ヨイ合) コイ合

陽二つの道を守る。その向を分

つて五體とす。木火土金水なり。

ど下は。別ち天地人の三才はこれ

雨月

十五

詠吟なるべし。われをば誰とが

思ふ奈くも西の海。擲が原の

波同より。現れ出で。往より

の神徳。疑はされ。そも

ともこの神の。因位を素ね奉

るに。昔は兜率の内院にて。高

貴徳。狂善菩薩と號し。今は又玉

埴のうららの國に跡を垂れ。和

歌を。守りて。佳の江や。松林の

もとに。住んで。ス。く。風霜を送

る。ここに。和歌の人。稀なる。所は

西行法師。歩を運び。給ひ。心を速

ぶ。和歌の友とて。神明。納受

垂れ。給ふ。これによ。つて。神慮の

程を。知ら。めんと。きねが。頭は

衆り。う。つる。謹。上。再。拜。真。之。序。止。す。必

西

十

西

十

國柘

國柘

(別五ノ四)

後(ヨイ合)に更(ハ)け静(ハ)まりてお(ハ)静(ハ)

い(ヨイ合)かにと(ハ)りてか(ハ)この程(ハ)の心(ハ)

態(ハ)め申(ハ)す(ハ)べき(ハ)り(ハ)かも(ハ)所(ハ)は

月(ハ)雲(ハ)の(ハ)三(ハ)音(ハ)野(ハ)な(ハ)れ(ハ)や(ハ)花(ハ)鳥(ハ)

の(ハ)色(ハ)音(ハ)に(ハ)より(ハ)て(ハ)音(ハ)樂(ハ)の(ハ)呂(ハ)

律(ハ)の調(ハ)琴(ハ)の音(ハ)に(ハ)嶺(ハ)の松(ハ)風(ハ)

通(ハ)ひ(ハ)来(ハ)る(ハ)天(ハ)つ(ハ)お(ハ)女(ハ)の返(ハ)す袖(ハ)

五(ハ)節(ハ)の(ハ)は(ハ)ど(ハ)め(ハ)ろ(ハ)れ(ハ)な(ハ)れ(ハ)や(ハ)

天女 太鼓樂 女子が 女子が

その唐玉の琴の糸(ハ)ひ(ハ)か(ハ)れ(ハ)か

な(ハ)づ(ハ)る(ハ)音(ハ)樂(ハ)に(ハ)神(ハ)神(ハ)も(ハ)來(ハ)臨(ハ)し

勝手(ハ)八(ハ)前(ハ)の(ハ)お(ハ)に(ハ)本(ハ)身(ハ)の(ハ)お(ハ)前(ハ)

花玉(ハ)と(ハ)は(ハ)五(ハ)と(ハ)藏(ハ)す(ハ)や(ハ)吉(ハ)野(ハ)

仕舞 山(ハ)即(ハ)ち(ハ)姿(ハ)を(ハ)現(ハ)して(ハ)即(ハ)ち(ハ)姿(ハ)

を現(ハ)し(ハ)終(ハ)ひ(ハ)て(ハ)天(ハ)を(ハ)指(ハ)す(ハ)手(ハ)は

國柘

十

胎藏

地を又指すは

金剛

寶石の上になつて

一を擲

げ東南西北十方世界の虚空

に飛行して普天の下を率出の

内に玉威をいかでか軽んぜ

んと大勢ががの力を出し國が

を改め治むる序代の天武の聖

代畏き慙新なりけるため

しかな

雷電

大小合方觀世流
太鼓と変りなし

(別五ノ五)

後アキ上、
以下拍子に合はず

教ささらさらとおし操んで普門

品を唱へければ、
地、
も黒雲

吹き寒がり、
闇の夜の如くなる肉

裏に晴れて、
明明とあり、
耳、
れ

はこそ何程の事のあるべき

ぞと。由新しけるところに
(初段)

思議や虚空に黒雲覆ひ
(手送) (ムスビ) (初段)

思儀や虚空に黒雲覆ひ
(判) (手送) (ムスビ) (初段)

かに内き渡りて内裏は紅蓮
(手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

の周の如くふもろづれ内裏は
(判) (手送) (ムスビ) (初段)

虚空に避るかと震動ひまな
(手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

鳴神の雷の姿は現れたり
(手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

繪馬 (太鼓習)

(別六ノ二)

言葉をかはすこの上は何を
(三地) (手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

か色むべきわれら伊勢の二
(手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

柱。ま婦と忍ぶ立ち出づる信
(手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

ずづ信せば疑波の川竹の
(手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

夜も明け行かば内外にて侍
(手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

ちえてまみえ申さんと夜中に
(手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

紛れて失せたり夜中にまき
(手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

れて失せたり出端越す詠カケ
(手送) (判) (手送) (ムスビ) (初段)

繪馬

長地

萬里に流りて。月讀の嘸神の。

序の尊容を照ら。出で給ふ。

後ニテ
ヨイ合 コイ合
われは日本秋津島の犬棟梁地

神五代の祖天照太神。和光利

物は清裳深川の。和光利物は

清裳濯川の水を踏立つる彼の

如。されども誓は虚空に満

ち來る五色の雲も。輝き出づる

日神の清姿ありがたや。所は

齋宮の名にありし。地所は齋宮

の名にありし。神垣いどろに

休綿敷の。あらはに神體あら

はれ給ふ。有がたや。太鼓中之舞止謠

し。天の岩戸に因ち籠りて。天

の岩戸に因ち籠りて。野神を

懲。め奉らん。そ。日月三つの

神皇正統記

三

會書

三

五右衛門

三十四

の時上人御經を承り上げ。於(地ノル地)

須臾頃便成正覺と。高らかに(シカケムスビアシライ)

唱へ給へば。忽ち蛇身を度(三段 寺放キツ)

つ。つ。忽ち蛇身度(イロエの内は物著(双)当り謡出ス太鼓不引)

如我等々異の身となれば。空(ツケ)

には紫雲たなびき。四種の花(トリノカ)

あり。虚空に音楽聞えまき(カト)

ねが教にたぐふなる。報謝の(ヨイ合)

舞の袂も。異香薫りて吹き送(ツケ)

る。松の風。颯々(ヨイ合)

け行く夜半の月も霜も白和(ヨイ合)

幣あり上げて。聲すむや(ハセ)

謹上。再拜。神樂サヨイ合。秘傳のおいか(ヨイ合)

はすみける。月なれば。入りて(地ノル地)

の後も。世を照すらん。嬉しや(カケ)

妙經信受の切が。嬉しや。妙經(カケ)

●仕舞
●独吟

見上

三十五

信受の功が三身圓滿の妙體(地ノル地)

と受けて秘意同塵。縁縁の(初段チ放)

姿を現し垂跡亦現してこの(地ノル地)

山の鎮守となつて火難水難(初段チ放)

もろもろの秘を除き七福財(三段チ放)

卦の秘を備てしめ。代代を重(初段チ放)

ねて衆生を廣く。懺度せんと(地ノル地)

紛々申しつづ。行方も白(三段チ放)

せ。給ひけり。(合込)

昭君

(別六ノ三)

一聲 本越 止ノコイ合

昭君上(コイ合) されは胡國に遷されし。王昭君(以下拍子に合はず)

の幽魂なり。さても父母別れを(地ノル地)

悲み。春の柳の木の下に。泣き悲(シカケムスビ)

み。珍み痛はし。さま。急ぎ鏡に(コイ合)

影を映し。父母に姿を見え申さ

心。春の夜の。朧月夜にあらはれ

て。墨りながらも。影見えん

面影の。身の毛もよだつばかり

なり。いかなる人にてまゝあせ

ば。鏡には映り給みらん

は。胡國の夷の大将。呼韓邪單

于が。幽霊なり。胡玉の夷は

人間なり。今ある姿は人なら

ず。目には見ぬとも音に聞か

ず。冥途の鬼か恐ろしや

君が父母に。鞞面のたぬに來り

たり。飛ぶなかりける鞞面が

な。姿を見るも恐ろしや

早笛二段 歩きたラキ 後シテ出 (正ナキ上ケ止ナシ)

恐ろしや。鬼もやいほん

なり。いかなる人にてまゝあせ

ば。鏡には映り給みらん

は。胡國の夷の大将。呼韓邪單

召中

三

も恐るべき謂はいかに心には

らぬ我が姿鏡に寄りて見給

へとふいであいで鏡に影を映さ

人眞に氣疎き姿かとも鏡に立

ち寄りよよく見れば恐れ

給みもあら道理や荊棘を戴

く髪筋は荊棘を戴く髪筋

は髪を離れて空に立ち

更にはたまらねば髪を離れて

結びあげ耳には鏡をさげた

れば鬼神と見え給み姿も和か

一鏡に寄りそひ立ても居

ても鬼とは恐れども人とは見

えずその身かあらぬがわれな

らば恐るるかりける顔つきか

な面目なりとて立ち席る

仕舞
獨吟

シカケムスビ

イ合イ合

カノル地

シカケチ放キツ

ラトスラトス

カノル地

初段ウケ

初段ウケ

シカケチ放キツ

シカケチ放キツ

カノル地

カノル地

カノル地

カノル地

カノル地

カノル地

カノル地

カノル地

カノル地

カノル地

カノル地

止マシ

穿入書

キリ地中
ただ昭君の黛は

菊意童

(番外七)

地上
拍子に合ふ
汝の妙文を菊の塚に墨く清く

露の身の不老不死の薬とな

つて七百歳を送りぬる。汲む人

か汲まざるも。返ぶるや千幸な

ららん。おもいらの遊舞やな

●仕舞
●独吟
太鼓樂 歩謡カケ
有秘の妙文やな。則ち

この文菊の塚に。則ちらる文菊の

塚に。悉く顯る。さればは。や。零

も芳しく清りも白ひ。舞もな

るや谷陰の水の。所は酈縣の山

の清り菊水の流。泉は固より

ては施し。わが身も飲むなり。飲

むなりや。月は宵の同その身

むなりや。月は宵の同その身

長地

長地

も酔ひて引かれてよろよろよ
(地)長地 (判)長地

ろよろと。ただよひ寄りて花を
(シカケムスビアマシライ) (五段目) (ツケ)ムスビ二段目

取り上げ戴き奉り。げほ有
(初段) (ウケ)ウケ (五段目) (ツケ)ムスビ二段目

継ぎ君の聖徳と岩根の菊を
(地)長地中々ムスビ二段目 (判) (ツケ)ムスビ長地ヲドリカ

手折り伏せ手折り伏せ。敷好
(手切) (ウケ)ウケ (判) (ツケ)ムスビ長地ヲドリカ (三級目) (ウケ)ウケ

の袖花を。花を。花を。花を。花を。
(二級) (ウケ)ウケ (ウケ)ウケ (ウケ)ウケ (ウケ)ウケ

固より薬の酒なれば。固より
(カケ) (ウケ)ウケ (判) (ツケ)ムスビ長地 (三級) (ウケ)ウケ

薬の酒なれば。酔ひほも。侵され
(地) (ウケ)ウケ (ツケ)ムスビ長地 (ツケ)ムスビ長地

ずその身も。衰らぬ。七百歳を
(手切) (ウケ)ウケ (判) (ツケ)ムスビ長地 (手切) (ウケ)ウケ

保らぬ。も。御花の。故なれ
(初段) (ウケ)ウケ (判) (ツケ)ムスビ長地 (手切) (ウケ)ウケ

ば。いかほも。久し。千秋の。帝
(ウケ)ウケ (判) (ツケ)ムスビ長地 (初段) (ウケ)ウケ

萬歳の。わが君と。祈る。意童が
(地)長地中々ムスビアマシライ (判) (ツケ)ムスビ長地段目 (ウケ)ウケ

七百歳を。わが君に。授け。墨き
(手) (ウケ)ウケ (判) (ツケ)ムスビ長地 (ウケ)ウケ

所は。石廊。縣の。山。路の。菊水。汲め
(二級) (ウケ)ウケ (判) (ツケ)ムスビ長地 (判) (ツケ)ムスビ長地

や。揃。べ。や。飲。む。も。飲。む。も。盡
(シカケムスビ二段目) (ウケ)ウケ (判) (ツケ)ムスビ長地 (手切) (ウケ)ウケ

き。せ。ど。や。盡。き。せ。ど。菊。か。き。分
(三級) (ウケ)ウケ (判) (ツケ)ムスビ長地 (三級目) (ウケ)ウケ

182
399

著者權所有
復製不許

大正十五年三月二十日印刷
大正十五年三月二十五日發行

東京府下豊多摩郡淀橋町
柏木百四十三番地

著作者 田崎延次郎

發行兼印刷者 檜 常之助

東京市神田區錦町壹丁目十番地

發行所 檜大瓜堂書店

電話長大平六八二九(振替東京三五五三)

東京市淺草區北富坂町十二番地

印刷所 青木常次郎

電話淺草二四五九

摩意堂

三

けては路の仙家^{(寄込)チホシキツ}は其のま^{(寄込)チホシキツ}ま^{(寄込)チホシキツ}ま^{(寄込)チホシキツ}

動は^{(寄込)チホシキツ}入り^{(寄込)チホシキツ}に^{(寄込)チホシキツ}け^{(寄込)チホシキツ}り^{(寄込)チホシキツ}

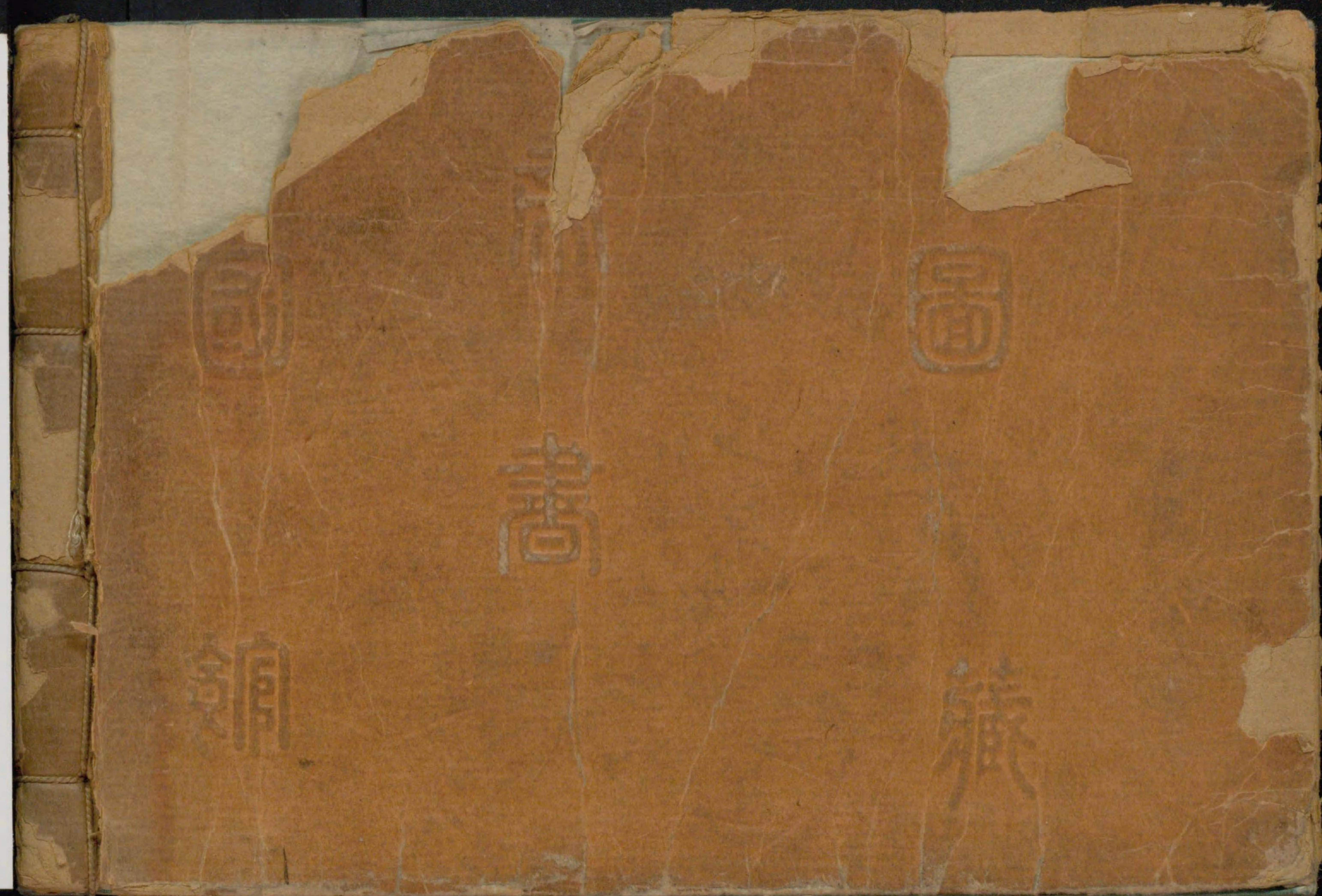
合双

合双(正アリ)

182
399

LIBRARY OF THE
MUSEUM OF COMPARATIVE ZOOLOGY
HARVARD UNIVERSITY
CAMBRIDGE, MASS.

LIBRARY OF THE
MUSEUM OF COMPARATIVE ZOOLOGY
HARVARD UNIVERSITY
CAMBRIDGE, MASS.

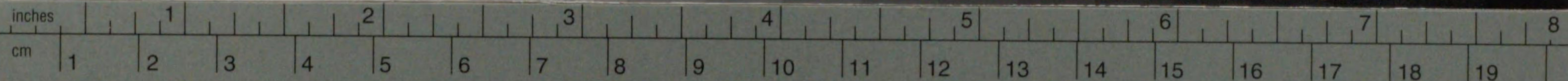


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

